

# 豆紙人形 老境の輝き

故マサコ・ムトーさん 生誕100年展

## 国内外を魅了の90点

到津の森公園

北九州市出身で、88歳から作り始めた「豆紙人形」が国内外で評判を呼んだマサコ・ムトーさん（1913〜2008）。生誕100年を記念し、4月から到津の森公園（北九州市小倉北区）で企画展が開かれる。

現在の北九州市門司区で生まれ育ったマサコさんは22歳で鉱山技師と結婚。夫の仕事で全国を転々とした後、神奈川県藤沢市に定住。亡くなるまで約40年間を過ごした。

専業主婦だったが、69歳で夫と死別してから創作への情熱を發揮。緑内障で右目を失明し、片足の曲がらない体でパステル画を習い始め、横浜市内や都内で個展を開いた。

88歳からは千代紙やお菓子の包装紙、つまようじなどを使い、3、4センチの豆紙人形づくりを始めた。お月

見や金魚すくい、鞠つきをする動物姿の子ども、みこしを担いだ男女ら、大正・昭和初期の情景を表した人形が人々を魅了。国内だけでなく、米国の高校や日系2世の老人ホーム、パリの日本文化会館などでも展示された。

到津の森公園の松岡裕史園長代理（57）は約10年前、インターネットでマサコさんの活動を知った。アップされた写真の笑顔や製作風景を見て、ハンディを背負っても前向きに生きる様子に心を惹かれた。人形からも作者の魂が入り込んだような味わいを感じ、企画を温めてきたという。

企画展「生誕100年 マサコ・ムトー人間展」では、豆紙人形約90点やパステル画、絵手紙などが展示される。4月6日〜6月16日。公園の入園料のみ。問い合わせは同公園（093・651・1895）へ。

（大塚実佳子）



豆紙人形を作っていたマサコさん



マサコさん、使った紙



一人ひとりの



# 北九州

報道センター  
TEL 098-583-1150  
FAX 098-583-1173  
メール s.kitakyushu@asahi.com